

附
錄

第一 得利寺戰ニ就テ

ア、シタケリベルグ稿

「ニコライ」參謀大學ニ於ケル參謀コマロフ中佐ノ得利寺戰ニ關スル講話ハ本年ノ「ルスキ一、インワリド」新聞第二十九號及第三十號ニ掲載セラレタリ

然ルニ講話者ハ此戰闘ニ參加セス且ツ西伯利第一軍團ノ記錄ニ存セル憑據スヘキ報告材料等ヲ利用スルコトヲ爲サヌ又予ニ就キテ照會スルコトヲモ爲サ、リシヲ以テ幾多ノ誤謬ヲ生シ且ツ實際ニ符合セサル結論ヲ爲セリ

〔第一〕講話者ハ得利寺戰ノ前提タル一期間ニ關シテハ少シモ論スル所無シ然ルニ此一期間タルヤ其當時ノ狀況ヲ研究スルニ極メテ重要ナル關係ヲ有スルモノナリ此期間ニシテ明瞭ナランカ西伯利第一軍團カ鞍山站ヨリ貔子窩迄北ヨリ南或ハ南ヨリ北ト前後ニ移動シタル狀況模様明白ト爲リ且ツ五月上旬即チ予カ西伯利第一軍團ノ指揮ニ就キタル頃ノ同軍團ノ戰闘力ヲ判明セシメ殊ニ露軍ノ諸部隊ヲ以テ全然新タニ組織シタル東部西伯利狙擊兵第九師團ノ戰闘力ヲ知悉スルヲ得タルヘシ

〔第二〕東部西伯利狙擊兵第三師團ノ一聯隊及西伯利哥薩克第二聯隊ナルモノハ支隊中ニ無カリキ而シテ前衛及騎兵隊長タリシヘシモノノフ中將ニシテザムソノフ少將ニアラス又東部西伯利狙擊兵第三十三

0448

聯隊ハ尙ホ二大隊ノ編成ナリキ全支隊カ六月五日得利寺ニ集合シタルカ如ク指示シタルハ是レ既ニ誤謬ニシテ實際第三十三聯隊ノ二大隊カ得利寺ニ到著シタルハ六月五日以後ニシテ歩兵第三十五師團ノ一旅團ハ六月十三日ニ到著シ東部西伯利狙擊兵第三十四及第三十五聯隊ハ六月十四日深更ヨリ十五日朝ニ至ル迄ニ到著シ西伯利第四軍團ノ「トボリスク」聯隊ハ尙ホ後レテ到著セリ且ツ初ニ來リタル歩兵二大隊ハ得利寺ヨリ北方五露里ノ地ニ於テ下車シタルモノナリ又哥薩克兵ハ第五及第二聯隊ノモノニアラスシテ第四、第五及第八聯隊ノ哥薩克兵ナリキ而シテ歩兵ノ數ハ四萬二千名ニアラスシテ僅ニ二萬七千名ナリ騎兵ノ數モ三千名ニアラスシテ僅ニ二千五百名ニ過キサリキ（講話者ヘ自己ノ講話ノ終尾ニ於テ一外國通信員ノ言フ所ニ據リテ六月十四日露軍側ノ戰線ニ在リタルモノヲ歩兵十五大隊トシ豫備隊ニ在リタルモノヲ二十七大隊トシ總計四十二大隊トセリ然ルニ實際戰線ニ在リタルハ歩兵十六大隊半豫備隊ニ在リタルモノハ八大隊即チ總計二十四大隊半ナリキ）

以上掲クタルハ皆細微ノ誤謬ニ屬スト雖モ講話者カ之ヲ避ケサリシハ予ノ遺憾トスル所ナリ
南方支隊ノ大半（歩兵及砲兵）ハ鐵道ニ由リテ得利寺ニ運搬セラレタリ故ニ軍團司令部（講話者ノ述フルカ如ク豈啻ニシタクリベルグ將軍ノミナランヤ）モ亦鐵道ニ由リテ得利寺ニ輸送セラレタルハ勿論ナリ而シテ列車ノ順序ハ輸送指揮官タルグスクット中佐ニ依リテ定メラレタルモノナリ兎ニ角軍團司令部ノ列車ハ南方支隊主力ヨリ非常ニ早ク得利寺ニ著シタルモノニシテ夫ノ講話者ノ述フルカ如ク南方支隊主力ヨリ後レタルニアラス又此列車ハ元來兵站貨物及軍團ヲ載セタル軍用列車ニシテ之ニ軍團

司令部用ノ數輛ノ客車ヲ連結シタルニ過キス停車場ニヘ三線路アリ且ソ此外停車場ヨリ南方ニ尙ホ一長線路（豫備線路トシテ使用シタリシモノ）アリシヲ以テ支隊司令部ノ客車ヘ毫モ輸送通路ニ障害ヲ與フルモノニアラサリキ故ニダスクント中佐モ亦他ノ何人タリトモ支隊長ニ向テ支隊司令部ノ客車カ鐵道ノ交通力ヲ減少セシムルモノナリトノ上申ヲナシタルコト無シ支隊司令部カ客車中ニ在リタルヘ蓋シ得利寺停車場小ニシテ其司令部ニ充ツル場所無カリシヲ以テナリ予ヘ此客車中ノ狹隘ナル室ニ生活スルヨリ寧ロ任意ノ一支那家屋ヲ好ミタルナリ（此等ノ客車ハ後ニ至リテ負傷者輸送ノ際其効ヲ顯ヘセリ）

〔第三〕講話者ハ述ヘテ曰ク

六月六日軍團長ヘ得利寺南方ノ陣地ヲ撰ミ之ヲ敵ノ攻擊シ來ル場合ニ對シテ防備ヲ施スコトニ決セリト

然ルニ實際ニ於テハ然ラスシテ千九百四年六月六日附軍團ニ下シタル命令第百七十三號ニヘ左ノ如ク
指示セラレタルナリ

前衛ヘ得利寺停車場ノ南方約八露里ニレテ鐵道線路附近ニ在一ル一陣地ヲ占領シ同地ニ設堡スヘシ而シテ主力ヘ得利寺停車場ノ附近地ニ配置ヲ執ルヘシト

而シテ同命令中ニハシモノノ將軍ニ向テ哥薩克一中隊ノ編成ヲ以テ復州ニ獨立監視哨所ヲ出スヘキ任务負ハシメタリ而シテ諸隊ハ千九百四年六月七日午前九時迄ニ上記ノ配置ニ就カサルヘカラサリキ

(命令ノ第八項)其後軍團長ハ六月六日及七日中ニ講話者ノ所謂敵ノ攻擊シ來ル場合ニ對スル(此ノ如キ場合アルヘシトハ其當時豫測セザリシモ)陣地撰定ノ爲メ得利寺以南瓦房店迄ノ土地偵察ヲ行ヒタリ然ルニ得利寺及瓦房店間ノ地形ヘ防禦陣地ニ適スルモノ少ク終ニ得利寺停車場ノ南方約三露里乃至四露里ノ距離ニ在リテ前者ニ比シ良好ナル一陣地ヲ撰定スルニ至レリ

予ノ記憶スル所ニ依レハ諸軍隊カ始メテ此陣地ノ防備ヲ開始セルハ六月九日ナリキ講話者ヘ「此陣地ノ防備タル甚ダ薄弱ナルモノナリ」と稱スルモ是レ意外ナル誣言ニシテ予ハ之カ辯明ヲ爲スノ義務アルモノト信ス支隊司令部附タリシ工兵及銃兵將校ハ熱心工事ニ從事シ限リアル兵力ヲ以テ僅カ五日間ニ一切ヲ完成セリ蓋シ防禦工事ノ爲ニハ最初二師團中僅カニ第一師團歩兵五大隊四分ノ三及第九師團ノ歩兵二大隊四分ノ三ノミナリシカ後ニ至リテ其作業力ニ第三十三聯隊二大隊ノ増加ヲ來セリ然レトモ一方ヨリ之ヲ觀テ予ハ此工事ノ進捗ニ或ル程度迄影響ヲ及ボシタリト思ヘル、事情ヲ酌量セサル能ハス其事情ヘ他ニアラス諸軍隊カ今ニモ行ハントスル前進運動ヲ知リ居タルト及此陣地カ唯々萬一ノ場合ニ對シテノミ防備ヲ施サレタルコト是レナリ又強力ナル支撑點ヲ造ラントスルニハ少カラサル時日ト資材ヲ要ス然ルニ時日モ資材モアラサリシナリ此點ニ於テ能フ限リ悉ク之ヲ行ヒタリ即チ「支撑點アリキ是同命令中ニハ神地右翼ニ關シテ述ヘテ曰ク「山嘴ヨリ右翼凸角堅迄ノ陣地ナリ占領スベシ」ト故ニ講話者ノ所謂「支撑點無カリシトハ根據無キ旨ナリ

講話者ハ又曰ク

擇定セラレタル陣地ヘ其延長支隊ノ兵力ニ適應セス且ツ砲兵肩牆ノ配置ヘ高地ノ山頂ニ設ケラレタ

ルヲ以テ之ヲ蔭蔽スルコト能ハスト

此等ノ非難モ亦根據無キモノナリ陣地(歩兵及砲兵)ノ延長ハ八露里ヲ越エス講話者ノ曰フカ如ク十二
 露里ニアラス八露里ノ延長ヘニ師團ノ配置ニ適ス殊ニ陣地ハ連續セル一線ヲ占メシテ地區ト爲リ居
 タルコトヲ思ハハ其然ルヲ知ルヘシ「ウスキ」、インワリド(第二十九號ニ外國通信ヨリ引用シタル所正シカラス西方地區ノ右翼ハ長キニ過の東方地區ノ左翼ニモ同シク誤認アリ即チ同左翼ハ瓦房高鋪ニテ終レリ若シ陣地カ不適當ニ長ク且ツ防備薄弱ナリシモノトスレバ敵ハ決シテ之ヲ包围セントハ爲サスシテ學ロ敵ニ有利ナル突破ニ出テタルヤ必セリ山頂ニ於ケル戰闘當時ノ砲
 兵配置ニ關シテ云ハンカ是レ唯、支隊ニ屬スル砲兵二中隊ニ關シタルコトニシテ全砲兵隊ニ關シタル
 兵配置ニ關シテ云ハンカ是レ唯、支隊ニ屬スル砲兵二中隊ニ關シタルコトニシテ全砲兵隊ニ關シタル
 コトニアラス且ツ砲兵自ラ過テルニ起レルナリ予ハ砲兵諸隊長ト協議ノ上蔭蔽サレタル地ヨリ行動セ
 シムルヲ目的トシテ予自ラ砲兵ノ部署ヲ指示シタルナリ然ルニ遺憾ナカラ或ル砲兵隊長ハ斷然此砲兵
 行動法ヲ非難シタルヲ以テ軍團長ハ其主張ヲ貫徹シ其要求ヲ遂行スルニ少ナカラサル困難ヲ感シタリ
 怡モ五月上旬西伯利第一軍團カ海城陣地ノ防備ヲ施シタル際ニ在リタル如キ事ヲ再演シタルナリ斯ク
 シテ東部西伯利砲兵第一旅團ノ第三及第四中隊ハ六月十四日ノ戰闘ニ指定ノ蔭蔽セラレタル陣地ニ配
 置ヲ執ラスシテ山頂ニ其配置ヲ執リタルカ爲メ猛烈ナル砲火ヲ被リ其人員材料ニ多大ノ損害ヲ受ケタ
 リ之ニ反シテ南方支隊中ノ殘餘ノ砲兵隊ハ其被リタル損害多大ナラサリシナリ

一方ヨリ論スレハ第一軍團ノ砲兵諸隊長カ其當時(九連城戰及得利戰ノ期間)砲兵ノ蔭蔽セラレタル地
 ヨリ行動スルヲ非難シ慣熟セル露出配置法ヲ以テ之ニ代ヘント努メタリシハ敢テ責ムヘキニアラス實
 際敵軍ニ於テハ砲兵カ蔭蔽セラレタル地ヨリ行動スル法カ標準ト定メラレタルモノナルカ又滿洲軍ノ

諸砲兵隊ハ實驗上此方法ニ習熟シ其準備完成シ在リタルカ且ツ其當時我軍ノ工兵及鍬兵ハ此ノ如キ隠蔽陣地ヨリ射撃スルモノナルコトヲ知了シ在リタルカト云フニ軍ノ工兵及鍬兵ヲ以テ豫メ防備ヲ施ナレタル諸山背上ニ特ニ構築セラノタル砲兵肩牆及蓋平、大石橋、海城、鞍山站、遼陽等ノ諸陣地ヲ以テ以上諸問ニ對スル答ト爲スニトヲ得ル滿洲軍ノ主將サヘ其當時砲ノ隠蔽配置ニ就キテ多少驚愕ノ態度ヲ以テシタルハ予カ其主將ト共ニ七月中大石橋ノ西伯利第一軍團陣地ヲ巡視シタル際ノ談話中確メ得タル所ナリ當時他ノ歐洲軍隊ニ於テヘ隠蔽地ヨリスル行動法制定セラレ在リタリシカ

予カ山背上ニ砲兵ヲ配置シタルコトニ關シテ講話者ハ不公平ニモ予ヲ非難セリ之ニ對シテ予ノ答ヘントスル所唯、一アルノミ即チ予ハ或ハ其當時滿洲軍中ニテ砲兵隠蔽行動法ヲ熱心ニ要求シタル少數者ノ一人タリシヤモ知ルヘカラスト雖モ而モ予カ此要求ヲ砲兵隊ニ向テ爲シタルハ既ニ得利寺戰以前海城陣地ノ防備ヲ施シタル際ニ於テシタルコトヲ敢テ茲ニ再言ス

〔第四〕講話者ハ曰ク

六月十四日ノ朝迄ニシタケリベルグ將軍ノ諸軍隊ハ次ノ如キ配置ヲ占メタリ即チ東部西伯利狙擊兵第九師團ノ二聯隊ハ砲兵二中隊ヲ率テ山嘴ナル西方地區ヲ占メ東部西伯利第一師團ノ二聯隊并ニ徒步砲兵及山砲兵二中隊ハ東方地區ヲ占メ狙擊兵第九師團ノ二聯隊ハ砲兵二中隊ト共ニ豫備隊トシテ李家屯ニ在リ又歩兵第三十五師團ノ二聯隊ハ砲兵四中隊ト共ニ得利寺ニ在リタリト
然ルニ以上ノ指示ハ實際ニ符合セサルモノナリ第九師團ノ二聯隊ハ砲兵二中隊ト共ニ豫備隊トシテ李

家屯ニ在ラス以上ノ諸隊ハ六月十四日深更ヨリ同夜ヲ通シテ拂曉迄ニ始メテ得利寺ニ到著シタルナリ又西方地區ハ歩兵四大隊四分ノ三分以テ占メタルモノニシテ第九師團ノ六大隊ヲ以テシタルニアラス豫備隊ニ在リタルハ歩兵第三十五師團ノ一旅團ニ砲兵二中隊ヲ附シタルモノニシテ砲兵四中隊ニアラサリシナリ

〔第五〕講話者ハ述ヘテ曰ク

午後五時敵ノ一師團ハ我左翼ヲ包圍セントシテ攻撃シ來レリト又曰ク西伯利狙擊兵第一師團ノ諸部隊就中狙擊兵第一聯隊カ苦境ニ陥リタルニ拘ハラス我全豫備隊ハ戰闘ノ終局迄何等ノ動作ヲモ爲サドリキト

此等ノ指示ハ實際ニ符合セサルモノナリ

予ハ六月十四日午後二時及三時ノ間ニ於テ騎馬ニテ東方地區ノ陣地ヲ巡視シ先ツ戰線ニ到リ後チ地區豫備隊ニ向ヒ同處ニ於テ第一師團長ダルングロス將軍ヲ見タリ同將軍ハ予ニ報告シテ曰ク「敵ノ攻撃ハ第二聯隊中ノ某々部隊ノ援助ヲ得テ之ヲ擊退セリ、支隊豫備隊ヨリノ増援ヲ要セス是日第一師團ニ於ケル損害ハ概シテ僅少ナリ第三及第四聯隊ハ損害殆ト無ク第一及第二聯隊ノ損害ハ三百五十名ヲ越エス」ト故ニ予ハ六月十四日第一師團ニ於ケル非常ノ苦境ト云ヘルハ根據無キ講話者ノ憶測ニ過キスト信スダルングロス將軍ハ支隊豫備隊ヨリノ増援ヲ要セスト云ヒタリシカ予ハ得利寺ニ歸來シテ其當時翌日ノ作戰計畫ニ基キダルングロス將軍ニ向テ歩兵第三十五師團ノ一旅團送付ノ命令ヲ發シタリ

〔第六〕講話者ハ曰クシタタリベルグ將軍ハ專ラ守勢行動ヲ以テ満足セリト

右ノ意見ニ依レハ六月十四日ヘ守勢ヲ以テセス攻勢ヲ以テ行動セサルヘカラサリシナリ然ルニ此ノ如キ説ノ實際ノ戰況ニ基キタルモノニアラサルハ深ク遺憾トスル所ナリ

然ラハ實際ノ戰況ハ如何實ニ左ノ如クナリキ

軍司令官ノ訓示ニ準シテ南方支隊ノ進軍ハ同支隊ノ諸隊カ悉ク得利寺ニ集中セシタル後チニアラサレハ決シテ開始スヘカラサルコト、爲リ在リタリ此問題ニ關シ軍團長カ軍司令官ニ向テ爲シタル報告書ニ依レハ此集中ハ六月十六日ニ結了シ六月十七日進軍ヲ開始スヘキ豫定ナリシコトヲ知ルヘシ而シテ砲兵隊ヲ率ヰタル第三十四及第三十五ノ兩聯隊及「トボリスク」聯隊ハ尙ホ遙カ北方ニ在リシモ予ノ熱心ナル要求ニ依リ豫定ノ期日ニ先タチ六月十四日ノ深更ヨリ翌朝ニ至ル迄ニ到著シタルナリ」故ニ六月十四日ニ於ケル南方支隊ノ行動ハ唯々我軍ノ集中ヲ期待的ニ行フヲ得タルノミナリキ

六月十四日我南方支隊カ過早ニ攻勢ニ轉セハ如何ナル結果ヲ生シタリシカ我軍ノ歩兵二十四大隊半ニ對シテ敵軍ニハ三旅團ノ豫備隊ヲ率ヰタル三師團ノ兵力アリタルニアラスヤ（我大隊ヘ戰鬪員七百五十名ナリシカ敵ノ大隊ハ一千名以上ナリキ）故ニ若シ我第一軍團ニシテ六月十四日攻勢ニ轉シタランカ其結果ハ一層寒心スヘキモノアリシナルヘシ如何トナレハ我軍ニハ歩兵十二大隊及砲兵三中隊尙ホ不足シ在リタリシヲ以テナリ

〔第七〕又「ルスキー、インワード」新聞第三十號ニ記シテ曰ク

此ノ如クニシテ支隊ノ状況ハ六月十五日朝ニ至ル迄殆ト變更無カキ即チ右翼ハ從前ノ如ク第九師團ノ二聯隊ニ依リテ防禦セラレ左翼ハ第一師團ニ依リテ防禦セラレ第九師團ノ一旅團ハ總機械備隊トシテ李家屯ニ位置シ第三十五師團ノ一旅團ハ敵ノ左翼ヲ迂回セントシテ前進シ騎兵隊ハ依然龍口ニ

在リタリト

然ルニ實際ニ於テハ全然之ト相違セリ即チ予ハ既ニ六月十四日ニ於テ全支隊ヲ舉テ六月十五日攻勢ニ轉スヘキ決意ヲ爲シ之ニ關シテ六月十四日附命令第百九十四號ヲ發セリ

而シテ前記命令ノ追加トシテ二通ノ書面ヲ送レリ内一通ハ諸縱隊長ニ宛テタルモノニシテ縱隊道路ヲ得利寺ヨリ北方萬家嶺迄ト指定シタリ又他ノ一通ハグルングロス及グラスコ（歩兵第三十五師團ノ旅團長）兩少將ニ宛テタルモノニシテ敵ノ右翼ヲ攻擊スル際ニ於クル我左翼縱隊ノ行動ヲ一層詳細ニ指示シタルモノナリ同書面中ニテ敵ノ右翼ヲ攻擊シ之ヲ迂回スヘキコトヲ明ニ命シ置キタリ即チ此敵ノ一翼ヲ迂回スルノ任務ハ何人ニ負ハシメラレタルカラ指示シ又其行動ヲ開始スルノ時ハ十四日ヨリ十五日ニ至ル夜中或ヘ然ラサルモ十五日拂曉ヨリ後ル、コト無カルヘキ如クニ之ヲ指示シタリ且ツ同書面ニハ「將軍某ト協議セラルヘシ」ナル辭句ヲ使用セリ如何トナレヘ予ハ上記ノ範圍内ニ於テ行動ヲ開始スヘキ報告ヲ予ニ致セリ

第九師團ノ一旅團カ李家屯ニ在ラサリシコトニ關シテ予ハ本辯明書第四項ニ述ヘタリ

コマロフ中佐ノ「騎兵隊ハ依然龍口ニ殘留セリ」ト云ヘルモ亦誤謬ニシテ實際同隊ハ前後ヲ通シテ龍口ニ在ラサソシナリ

千九百四年六月十三日軍團ニ下セル命令第百九十三號ニ記シテ曰ク敵ハ約二師團ノ兵力ヲ以テ南方ヨリ得利寺停車場ニ前進ス第一軍團ノ諸隊ハ敵ノ前進ニ對シ干家屯北方鐵道線路ノ兩側ニ防禦陣地ヲ占領スヘシト而シテ其後騎兵ニ對シテハ大房身ニ退却シ同所ノ西方ニ配備ヲ執リ陣地ノ右翼ヲ掩護シ大房身、南家屯、陳家屯地域ニ於ケル諸道路及河谷ヲ監視スヘシト命令セリ

大房身ハ我步兵陣地右翼ノ南方及西方ニ在リ故ニ我騎兵ニ對シテ指示スルニ前方地域ヲ以テシテ歩兵ト一線上ニ之ヲ指示セス豈ニ我騎兵ハ講話者ノ稱スルカ如ク龍口ニ在リタルモノナラシヤ之ヲ要ヘル

ニ騎兵ハ六月十五日以前ノ期間支隊ノ前方ニ在リタルナリ

〔第八〕當時午前八時頃軍團司令部ハ騎兵隊ヨリ敵ノ大縱隊カ南西方ヨリ進ミ來レルノ報ニ接セリト此一節モ亦大誤謬ナリ此報告ノ騎兵隊ニヨリテ發セラレタルハ午前六時ニシテ軍團司令部ノ此報告ニ接シタルハ午前十一時頃即チ予カ我右翼掩護ニ關シ幾多ノ命令ヲ下シ最初第三十五聯隊ヲ差遣シ後チ躬ラ第三十四聯隊及「トボリスク」聯隊ノ二大隊ヲ率テ之ニ赴キタル時ナリ（其際我隊ニテハ馬二頭負傷セリ）

故ニ講話者カ午前十時半シタケルベルグ將軍ハ始メテ我軍ノ右翼カ包圍セラル、ノ危險ヲ知リ總豫備隊ニ向テ龍口ニ進ミ迂回シツ、在ル敵軍ヲ沮止スヘキ命ヲ送レリ（實際ハ予躬ラ總豫備隊ヲ率エタル

ナリ)ト云ヘルノ當否ハ「見明瞭ナル」ヘシ

且ツ前記ノ辯明ハ講話者ノ何故シタクリベルグ將軍ハサムソノフ將軍(其實ハシモノフ將軍ナリ)ノ遙々タル報告ニ信ヲ措カス且ツ既ニ認ミラレタル包圍ニ對シ何等ノ處置ヲモ爲サシテ四時間ヲ空費シタリシカ了解ニ因シムナリト云ヘルニ對シラモ亦答解トナルモノナリ

〔第九〕講話者曰ク

戰闘後ノ退却ハ既ニ世人ノ知レルカ如ク至難ナル作戦ノ一ナリ而シテ狙擊兵第九師團ヘ得利寺ニ向テ退却スル際非常ナル困難ニ遭遇セリ即チ殆ト道路無キ地ヲ退却セサルヘカラサルニ至レリ而シテ山嘴ニ通スル道路ハ敵ノ奪取スル所ト爲リ龍口ノ北方ニハ敵軍我ヲ迂回シツ、進メリト

又曰ク

總テ此得利寺退却ヲ掩護シタルハ鐵道ニ由リテ到著シタル「トボリスク」聯隊、第三十四及第三十五聯隊ノ數中隊ヨリ成レル後衛ナリキト

是亦實際ニ相違セルモノナリ

南方支隊ハ三個ノ縱隊ヲ以テ退却シタルモノニシテ一縱隊ヲ以テシタルニアラス而シテ各縱隊ヘ各後衛ヲ有シタリ又此等ノ諸縱隊ハ既ニ六月十四日指定セラレタル道路ニ由リテ退却シタルナリ故ニ講話者ノ第一師團ヘ遠路ヲ迂回シテ退却セサルヘカラサルニ至レリト云ヘルハ何等ノ根據ナキ言ナリトス且ツ第九師團ニ要スル山嘴ニ通スル道路ハ敵ノ占領スル所ト爲リタルニアラスシテ第九師團ハ戰ヲ

交へツ、徐々ニ歩調ヲ整ヘテ勇マシク得利寺ニ退却シタルナリ故ニ歩兵カ諸道路ヲ利用スルコトヲ得
サリシヘ言ヲ俟タスシテ明カナリ况ヤ道路ヘ唯、一條ノミナリシニ於テヲヤ

第九師團カ其陣地ヨリ得利寺ニ退却シタル際「トボリスク」聯隊ハ後衛ト爲リタルニアラスシテ得利寺
ノ北方五露里ニ於ケル鐵道小停車場ノ西方ニ於テ側衛ト爲リタルモノナリ第九師團カ其陣地ヨリ前記
ノ鐵道小停車場迄退却セル際同師團ノ後衛ハ順次三個ノ陣地ヲ占領セリ而シテ其敵ニ最モ近キ陣地ヲ
撤退シタルハ次ノ陣地カ同師團本隊ノ新後衛ニ依リテ占領セラレタル時ナリトス第九師團ノ後衛中ニ
ハ軍團長在リタリ

講話者又曰ク

敵ハ得利寺ヨリ尙ホ遠ク追撃セサリキト

是亦正確ナルモノニアラス

敵ハ得利寺停車場ノ南方約三、四露里ニ在ル我陣地ヲ占領シタルノミニテ其以上少シモ運動セサリキ
(是レ奥將軍ノ公報ニヨリテ確カナリ)而シテ得利寺停車場ハ六月十六日午前我騎兵隊尙ホ之ヲ占領シ
在リシ筈ナリ

講話者カ誤謬アル且シ實際ノ根據ヲ有セサル一般結論ニ對シテ予ハ辯駁ヲ試ミサルヘシ蓋
シ右ニ對スル辯駁ハグルコ少將(其當時軍團司令部ニ參謀トンテ勤務シタル人ニシテ軍團參謀長ハイ
ワノフ少將ナリキ)ニ依リテ爲サレタルヲ以テナリ

ハグルニ少將ノ意見ヲ賛成シテ唯、以下數言ヲ附スルニ止メントス

六月十四日攻勢ニ轉スルコト能ハサリシヘ本辯明書ノ第六項ニ評説シタル理由ニ依ル

得利寺敗勦ノ主因ハ予ノ思惟スル所ニ依レハ軍司令部ヨリ接受シタル敵ニ關スル不正確ナル通報（南方支隊ニ對スル敵ハ一師團乃至多ク共ニ二師團位ノ一掩護隊ナルヘシトセラレタリ）及我騎兵隊ヨリ來レル信スヘカラザル情報（敵ヲ一師團半乃至二師團ナリトセル）ニ依リテ南方支隊長カ實際ノ狀況ニ適セサル判断ヲ下シタルニ在リトス加之支隊ノ騎兵隊ハ鐵道ノ西方海岸ニ至ル迄全地方ノ精細ナル偵察及復州ニ出シタル監視小哨トノ連繫ヲ熱心ニ支持スルコトニ關スル要求（命令第百七十三號及第一百九十三號）及敵ノ左翼ニ行動スヘシトノ訓令（千九百四年六月十四日附第千九百四號）ヲ途行セサリシナリ此他尙ホ一ノ重要ナル訓令ニシテ途行セラレサリシモノアリ即チ敵ノ逼撃ヲ蒙リタル場合ニヘ騎兵隊ハ其指示セラレタル道路ニ由リ龍口ヲ經由シテ退却スヘシト云ヘルヲ遵守セサリシコトナリ

我騎兵隊ハ前記ノ諸項ヲ遵守セスシテ六月十五日退却ノ際ハ李家屯ヲ經由シテ得利寺ニ敗走シ來リ以テ我右翼ヲ暴露シタルナリ

此誤謬ニシテ大ナル災害ヲ生セサリシモノトスレハ是レ偏ニサムソノフ將軍カ此ノ如キ騎兵ノ行動ハ其接受シタル命令ヲ全然忘却セルモノナリトシ自ラ騎兵數部隊ヲ率テ退却シ適時龍口ニ通スル道路ヲ占領シタルニ因ルナリ而シテ予ハサムソノフ將軍カ自ラ致シタル報告ニ依リテ此事件ヲ茲ニ指摘スルモノナリ

0460

六月十五日我騎兵隊ニシテ其砲兵ト共ニ訓令ニ準シテ行動シタリシナランニハ少ナクトモ敵ヲシテ著
シキ困難ニ遭遇セシメ其迂回ヲ遲滞セシムルコトヲ得タルナルヘシ（奥將軍ノ公報ニ依レハ日本軍ハ我軍右翼ノ
諸隊ヲ退却セシムルニ多大ノ勞苦ヲ費シメ
リ而シテ日本軍ハ我陣地ヲ占領シタル時我軍ヲ追撃スルノ決意ナ爲ササリシ迄ニ因縁シハ陣地ノ防備ニ著手シダリシト故ニ此公報ハ于
ノ意見タル「若シ我騎兵隊ニシテ我右翼ニ在リタランニハ六月十五日ノ戰闘ハ此ノ如キ失敗ニ歸セサリシナルヘシ」ト云フナ確ム
モノ）
六月二十四日大石橋ニ於テハ騎兵隊ニ向ヒテ之ト等シク敵ノ左翼ニ對シテ行動スヘシト云ヘル命
ナリ
令ヲ下シタルニ非常ノ好結果ヲ得タリ即チ一師團半ノ敵ノ前進ハ爲ニ全ク阻止セラレタルナリ（其時

騎兵隊ヲ指揮シタリシハコサゴフスキ一將軍ナリキ）

又一方ヨリ論スレハ若シ南方支隊長ニシテ六月十二日或ハ十三日奥軍擧テ進軍シ來ルコトヲ豫知シ且
ツ其兵力ノ非常ニ我ヨリ優勢ナルコトヲ知リタランニハ當ニ六月十五日ノミナラス六月十四日ニモ亦
戰鬪ヲ爲スカ如キコトアルヘキ害無ク敵前必要ニ應シテ徐ロニ退却スヘカリシハ必然ナリ此ノ如キ行
動法ノ當然ナルハ軍司令官ノ作戰命令（優勢ナル敵トノ衝突ヲ避クヘシ）并ニ六月十三日或ハ六月十四
日予カ支隊參謀長及グルコ大佐ト爲シタル會話中ノ予ノ豫想ニ依テ明カナリ
又敗衄ノ他ノ一原因ハ歩兵第三十五師團一旅團ノ奇怪ナル行動ニシテ是レグルコ將軍ノ描出セル所ニ
ヨリテ明カナリ（日本軍右翼ノ攻撃ハ六月十五日拂曉二行ハサルヘカラサリシニ正午過ニ至リテ幾ニ之三著手セリ（諸話者
ハ一外國通信ニ證據シ再言シテ曰ク「シタケリベルク將軍ハ砲撃ナ以テ曲備セシムテ攻撃ナ行ヘリ」ト六月十
五日敵ノ右翼ニ對シテ攻撃ナ行ヒタルハソタクリベルク將軍射ラ之ヲ爲シタルニアラスシテゲル
クロス將軍ナリ同將軍ノ配下ニハ砲四十四門アリタルニ其砲ヲ使用セサリシトハ疑ハシキコトナリ
予ハ以上得利寺戰敗衄ノ主因ヲ説明シタレハ茲ニ騎兵ノ罪ヲ寃怒スヘキ事情ノ存シタリシコトヲモ指
摘セサルヘカラス即チ我騎兵ハ住民カ我ニ敵意ヲ狹メル地方ニ於テ偵察ヲ行ビタルコト及我騎兵隊カ

其土地ノ言語ニ通セザリシコト是レナリ此ノ如キ状況ニ於テヘ唯、間諜ヲ以テ情報ヲ蒐集シ必要ナル
調査ヲ爲スヨリ途無シ然ルニ西伯利第一軍團司令部ニハ此ノ如キ間諜ノ豫メ準備セラレタルモノ無ク
又予カ同軍團ヲ指揮スルニ至ル迄(四月三十日)此ノ如キ重要ナル設備無カリシナリ而シテ予ハ五月上
旬大石橋及海城ニ於テ此點ニ關シテ企圖シタリシカ金錢ノ不足ニ依レルニアラス相當ナル執行者無キ
カ爲メ消極的ノ結果ヲ得タリ此勤務タルヤ他ノ軍事上ノ事物ト同シク準備無クシテ速成シ得ヘキニア
ラナルナリ

序ナカラ此事ニ就キテ尙ホ數言ヲ左ニ述ヘン

夫ノ千八百七十、七十一年ニ於ケル普佛戰爭ノ後チ多クノ獨逸軍事通ハ「普佛戰爭ノ實驗ハ騎兵偵察法
ヲ以テ敵ニ闘スル重要ナル報告ヲ得ルノ不可能ナルヲ明瞭ニ證明セリ且ソ此ノ如キ報知ヘ唯、間諜ヲ
以テ之ヲ求ムルコトヲ得ルノミナリ」トノ說ヲ爲セリ今回ノ日露戰爭ハ其說ノ確實ナルヲ證明セルモ
ノニシテ我軍ニハ騎兵多クシテ間諜少ナク常ニ敵ニ關シテ知ル所少ナク且ソ其時期ヲ失セリ之ニ反シ
敵バ騎兵少ナカリシカ間諜多ク從テ常ニ一切ヲ知悉シ其時期亦當ヲ得タリ故ニ予ハ自信ヲ以テ斷言ス
未來ハ日本軍ノ例ニ倣ヒ豫バ平時ニ於テ秘密軍事探偵ノ勤務ヲ組織スルコトヲ要スト
東部西伯利狙擊兵第四聯隊カ退却シタルコトニ關シテハ左ノ事項ヲ説明スルニ止メングルングロス將
軍ニ退却命令ヲ傳達シタルハ傳令將校子ツブ中尉ニシテ同中尉ハ予ノ許ニ歸來シ報告スルニハ同中尉
カグラングロス將軍ノ許ニ赴キタル途上既ニ第四聯隊ハ其六月十四日占領シ居タル陣地ヨリ退却シタ

ルヲ見タリト

予ハ此機會ヲ利用シテ彼ノ通信員ニ依リテ軍中ニ流布セシメテレタル虛説タル「第一師團カ恰モ敵ノ最後ノ散兵擡ニ突撃ヲ試ミントセル瞬時ニ於テ予ノ退却命令ニ接セリ」ト云ヘルヲ取消サントス以上ハ總テ虛構捏造ノ言ナリダルングロス將軍ノ得利寺戰ニ關スル報告中ニモ同將軍ハ述ヘテ曰ク退却命令ハ受ケタルコト無シ予ハ第四聯隊ノ退却ヲ見テ予ノ專斷ヲ以テ退却開始ノ命ヲ下シタルナリト又ネシフ中尉ハグラングロス將軍キハ予カ前日同將軍ト談話シタル陣地ニ認メシテ夕頃ニ至リ始メテ第一師團ノ退却シツ、在リタル縱隊中ニ於テ同將軍ニ追及セリト報告セリ以上ヲ以テ予ハ講話者ノ下セル結論及非難ノ多クハ根據無キモノナルコトヲ辯明シ盡シタリト信ス得利寺ノ敗北ハ敵ノ兵力ニ關シチ知ル所不十分ナリシヨリ起レリ然レトモ惟フニ此事タル若シ六月十五日我左翼ニ於ケル歩兵第三十五師團ノ不成効ナル行動及右翼ニ於ケル騎兵ノ失敗起ラサリシナランニハ危險ナル結果ヲ招カサリシヤモ知ルヘカラス(而カモ好果ヲ得タリシヤモ知レス)

第一 再ヒ得利寺戰ニ就ナ

五八

(參謀大佐コマロフ述)

軍隊ハ戰闘ニ使用スヘク殺戮ニ使用スヘキモノニ非ス

ナボレオン

一千九百四年六月十四日及十五日ニ於ケル得利寺戰ニ關スル余ノ講話中余ハ其考案上及其實行上ヨリ論シテ該戰闘ヲ失敗ニ終ランメタル原因ヲ説明セントノ唯一ノ目的ヲ達セントシタルノミ勿論其際余ハ憑據スヘキ材料及文書ヲ有セサリシヲ以テ余ノ講話カ必スシモ此戰闘ノ一切ノ事件ヲ網羅セル正確ニシテ且ツ詳細ナル記事ナルヘシトハ思ハサリシナリ抑モ此ノ如キ記事ハ總テノ區署、訓令、文書、彼我兩軍ノ總テノ行動ヲ悉ク世人ニ知ラレテ後ナ始メテ世ニ出ツヘキモノナリ然ルニ今ニ至ル迄此事無ク又何人モ一切ノ事情ニ通スル者無キヲ以テ事實的記事ナルモノカ虛偽不正確ノ譏ヲ免レサルハ勿論ナリトス

詳報無ク假令有リトルモ頗ル不正確ナルモノ、ミナルカ中ニ余ノ手許ニハ余カ敢テ幾多ノ根據アル論斷及結論ヲ爲スヲ得タルシタケリベルグ將軍南方支隊ノ區署及行動ニ關スル重要ナル公報アリタルナリ

(一) 南方支隊ニ課セラレタル任務ハ實行シ得ヘカラサルモノニシテ且ツ南方支隊カ如何ニ適切ナル行動ヲ爲シ又ハ區署ヲ爲シタリトテ同シク其目的ヲ達スルコト(日本攻圍軍ヲ薄弱ナラシムルコト)

0464

能ハサリシモノナリキ「ルスキ一、インワリド」新聞第二十九號參照】

(二)偵察ヲ行フコト甚タ拙劣ナリキ即チ五月三十日以來我騎兵カ得利寺以南ヲ偵察シ在リタルニ拘ラス南方支隊司令官ハ敵ノ全一師團カ我右翼ニ對シ迂回運動ヲ行ヒツ、在ルヲ六月十五日朝ニ至ル迄全ク知ラサリキ

(三)六月十四日就中六月十五日ニ於ケル我軍ノ配備ハ地形ニ適應セサリキ

(四)戰闘ノ總指揮ヲ缺ケリ(迂回行動ニ派遣サレシ我第三十五師團ノ一旅團ハ拂曉ヨリ午前十一時頃ニ至ル迄何等ノ訓令無クシテ行軍シタルヲ以テ後二人ヲ派シテ之ニ諭達ヲ爲スニ至レリ)

(五)陣地ハ支隊ノ兵力ニ相應セサリキ

(六)支隊ノ得利寺集中ハ遲延セリ

(七)之ヲ要スルニ得利寺ノ敗戦ハ日本軍ノ爲ニ之ヲ被リタリト謂ハシヨリ我軍自ラ責アリト謂フヘシ余ハ再ヒ茲ニ前言ヲ繰リ返スヘシ即チ以上ノ結論ハ充分根據アルモノニシテ公報モ全然此結論ノ公平ナルヲ確證ス

余カ講話ヲ爲シタル目的モ亦此結論ニ到達セントスルノ意ニ外ナラス故ニ余ノ講話へ詳細ニシテ且ツ諸方面ニ亘レル戰闘記事トシテ研究セラルヘキモノニアラサルナリ而シテ上述ノ目的ニ對シテハ今ニ至ル迄何人モ必要ナル報告及文書ヲ有セサルナリ

然ルニ南方支隊司令官タリシシタケリベルグ中將及軍團司令部附特別任務參謀將校タリシグルコ少將

「此等ノ結論ニ對シテ辯駁ヲ加ヘ且ツ戰闘ノ事實的叙述ニ修正ヲ加ヘント欲セリ而シテグルニ將軍ノ辯駁ノ如キハ余ノ結論及余ノ述ヘタル事由ノ辯駁タラスシテ却テ該結論ヲ益・確證セルモノト爲レリ〔即チ陣地ノ過長狙擊兵第四聯隊過早ノ退却、第三十五師團ノ一旅團ノ不成功ナル迂回、砲兵ノ暴露配置及偵察ノ不良）（「ルスキー、インワリド」第三十號參照）〕是レ單ニ已ニ不快ナル事物ヲ取消サントノ希望ニ出テタルコトヲ證スルモノナリト謂フニ至リテハ豈ニ奇怪ノ次第ナラスヤ

シタケリベルグ將軍ノ辯駁ハ主トシテ事實的方面ニ重キヲ措キ又一部余ノ結論ニ係ハレリ而シテ其事實的方面ニ於テ支隊カ得利寺ニ逐次集中シタルコト并ニ幾分カ軍ノ區署ニ差異アリタルコト及騎兵ヲ指揮セシハサムソノノ將軍ニアラスシテシモノノ將軍ナリシコトハ實ニシタケリベルグ將軍ノ指摘セル所正當ナリトセサルヘカラス
然レトモ此等ノ訂正ト云ヒ又ハ余ノ徹頭徹尾首肯スヘカラサル注意ヲ受ケタル諸點ハ余ノ結論及注意要項ノ真價ヲ少シモ缺損セシタサルノミナラス却テ益・其正當ニシテ且ツ論理ニ適ヒタルヲ明白ニ確證スルモノナリ殊ニシタケリベルグ將軍カ「此ノ如キヲ以テ余ハ講話者ノ誣言及結論ノ多クカ根據無キコトヘ充分明瞭トナリタリト思惟ス」ト云ヘル一句ノ如キハ實ニ余ノ意外トル所ニシテ且ツ諷ユルノ甚タシキモノナリ

余ハ根據無キ結論ヲ爲シタリトノ識ヲ免カレンカ爲メ茲ニシタケリベルグ將軍ノ言ヲ一々列舉シテ詳細ナル辯駁ヲ試ムヘシ

シタクリベルグ將軍曰ク「講話者ノ實際ニ依ル所無キ結論ニ對シテハ余ハ茲ニ辯駁ヲ試ミザルヘシ蓋シ是レ既ニグルコ將軍ノ爲セシ所ナルヲ以テナリ」ト故ニ余ハシタクリベルグ將軍ハグルコ將軍ノ辯駁ト同意見ナリト認ム

(一) グルコ將軍ハ大學ノ講堂ニ於テ余ニ辯駁ヲ試ミシタクリベルグ將軍ハ「ルスキ、インワリド」ニ自己ノ辯解ヲ掲載シテ共ニ講話者ハ戰闘ニ參加セサリキト云ヘルコトヲ言明スルヲ最モ肝要ナルモノナリトセリ是レ何等ノ愚ソヤ是ヲ以テ兩氏ハ實戰ニ參加セサルモノカ其是非ヲ論シ得ヘキニアラスト云ハント欲スルヤ明カナリ兩氏宜シク妄言ヲ止メヨ吾人ハ今回ノ不幸ナル戰役ニ於テ幾多ノ敗衄ヲ重ネタルノミナラス忘ルヘカラサル軍事ノ原則ヲ全然忘却セルハ實ニ寒心セサルヘカラス如何ナル權利ニ依リ又如何ナル實際的推理ニヨリテ斯ク「參加者」「不參加者」ナルニ語ニ重キヲ措クカ「參加者」ニヘ自己ノ行爲ニ對シテ縱ニ批判スルノ特權ヲ與ヘ參加者以外ノ者ニ之カ批判ヲ許サナルカ如キ事ヘ何時頃ヨリ始マリタルモノナルカ

客觀的批判カ唯我獨尊的ナル主觀的感想ヨリ甚タシク貴重ナルヘ全世界ノ等シク認ムル所ナリ然ルニ此種ノ批評ヲシテ宛然一ノ證人ノ申立ト同一視セラレ極メテ嚴重ナル審査ニ附セラルルトヘ豈ニ驚カサルヘケンヤ此ノ如キ嚴重ナル審査ニハ寧ロ大ナル利害關係ヲ有スル人々ノ申立ヲコソ附スヘキモノナルヘシ戰闘參加者ナル辭句ニ重キヲ措クコトヲ止メヨ參加ナル一事ヘ單ニ個人的感想ノ或ル一定量ヲ確證スルノミニシテ何等ノ益無キノミナラス寧ロ客觀的ニ事物ヲ觀察スルニ

ト能ハサラシムルモノナリスノ如キ幼稚ノ事柄ニ就キテ云爲スルヘ多少奇怪ノ觀ナキニ非ラサルモ『余ハ現場ニ在リシモ貴下ハ然ラス』ト云フ常套ノ言ニ就キ根本的ニ解决ヲ爲スノ要アレハナ

リ

果シテ此ノ如クンヘ古來有ラユル勇將ノ偉業モ當時ノ戰役若クヘ戰鬪參加者ニシテ生存セル者一人モ無キヲ以テ何人モ好ク其事蹟ヲ批判シ得ヘカラサルノ故ヲ以テ湮滅セシムルニ至ラン然ラヘ參加者諸氏ニシテ多少秩序的ナルコトヲ希望セラル、向ハ如何ナル結論ヲ爲サルヘカラサルカ余カ敢テ問ハント欲スル所ナリ

故ニ余カ得利寺ノ戰鬪ニ參加セサリシトノ批難ヘ余ノ資格ヲ傷クルニ足ラサルノミナラス却テ參加者殊ニ利害關係ヲ有スル人々ニ比シテ公平ナル批評ヲ爲スニ一層多クノ機會ヲ余ニ提供スルモノナリ

(二)余ハ得利寺戰鬪前ノ一期間ニ關シテ說ヲ爲シ尙ホ詳細ニ總テノ戰略上ノ形勢ヲ述ヘタリ然レトモ西伯利第一軍團カ如何ニ進退行動セシカニ就キテハ說述セサリキ

如何トナレハ講話ノ題目ヘ得利寺戰鬪ニシテ四十分ノ短時間ニテハ到底此以上ヲ說述シ能ハス況ニヤ假令趣味アルコトナルモ左程ノ詳細ニ迄立入リテ之ヲ述フル能ハサルニ於テヲヤ換言スレヘ余カ一時間講話ノ題目ハ委曲ヲ說述スルニアラス委曲ヲ叙述スルハ戰史ノ爲スヘキ事業ニ屬ス故ニ此ニヘ唯々戰鬪ニ關スル一般ノ考案ヲ叙述シ且ツ最モ大ナル誤謬ヲ指摘解説スルニ

在リ

(三) シタケリベルグ將軍ハ得利寺陣地ノ防備頗ル薄弱ナリシコトヲ非認セルノミニシテ之ニ對シテ何等ノ證據ヲモ舉クス同將軍ノ「出來得ル限リ一切ノ手段ヲ盡シタリ」トノ言ハ極メテ曖昧ナルモノナリ

又曰ク『然レトモ一方ヨリ之ヲ考フレハ我軍カ今明日ニ迫レル前進ヲ豫期シ且ソ陣地ハ唯萬一ノ場合ニ對シテ防備ヲ施サレタリシ等或程度迄工事ノ進捗ニ影響ヲ及シタリシ事情ヲ酌量セサルヘカラス加之堅固ナル支撑點ヲ構築スルニハ少ナカラサル日時及資力ヲ要スルモノナルニ兩者共之ヲ缺キタリキ』ト

然レトモ五日ニ亘リテ工事ヲ行ヒタルニ非スヤ一晝夜中ニ陣地ノ立派ナル防備ヲ施シ得ヘキコトヲ知ラサルヤ

(四) シタケリベルグ將軍ハ其陣地ノ延長過大ナリトノ非難ハ全然事實無根ナリト公言セリグルニ將軍モ亦同ゾク說ヲ爲シテ曰ク『得利寺ノ陣地ヲ正確ニ評定セント欲セハ須ラク支隊ノ總配置中ヨリ右翼ニ在リシ騎兵隊及中央ニ在リテ我有ニモアラス又敵ニモ攻撃ヲ受ケサリシ陣地ノ一地區ヲ除外スルノ要アリ』ト

又シタケリベルグ將軍更ニ聲援シテ曰ク『此ノ如キ陣地ノ延長ヘ二師團ノ配置ニ適當セルモノニシテ殊ニ其陣地ハ連續シタルモノニ非ズシテ之ヲ地區ニ分ナテ占守シタリシモノナルコトヲ思ヘ

ハ蓋シ余ノ言ニ首肯スルコトヲ得ヘシ』ト

果シテ然ラハ若シ正面延長中ニ我軍ノ占守セサル地區アリトスレハ此地區ハ所謂計算中ニ加ヘザルモノナルカ然ルニ實際ニ於テハ陣地ヲ計算スルニハ最右翼ノ一地點ヨリ最左翼ノ一地點迄ヲ以テシ其中如何ナル間隙存在スルモ亦此間隙カ敵ノ攻撃セント否ラサントニ關セス此陣地ハ依然トシテ決シテ短縮セラルヘキモノニ非サルナリ詳言スレハ今日ノ武器ヲ以テスレハ全陣地ヘ連續シテ之ヲ占領スルヲ得ルモノニシテ最モ猛烈ナル十字砲火ヲ加フヘキ地域ヲ其儘殘置スルコトヲ得然レトモ之ヲ以テ直ニ此地域ヲ計算中ニ加ヘスト断定スルハ不可能ノ事ナリグルコ將軍ノ言カ矛盾セルハ次ニ掲クルカ如キ事情ニ依リテ一層明ニ其然ルヲ知ルヘシ

即チ同將軍ハ其駁論ノ初メニ於テハ前ニ掲クタルカ如キ自己ニ都合良キ理論ヲ引用シテ陣地ノ過長ニアラサルヲ主張スルニ引續キ其軍隊統率ノ難ヲ證セントシテ此困難ハ蓋シ其陣地ノ甚タシク

長クシテ十五露里ニ亘レルヨリ起リタルモノナリト云ヘリ

(五)何故ニ砲兵諸隊ヲ山背上ニ暴露シテ配置セシメタルカニ對シテシタクベルグ將軍カ爲シタル説明ハ毫モ砲兵隊カ拙劣ナル配置ヲ行ヒタルノ事實ヲ否認スルニ價セサルモノナルヲ以テ余ノ言ハ蓋シ正鶴ヲ誤ラサルモノナリ

(六)シククリベルグ將軍ハ六月十四日ニ於テ全然守勢行動ヲ執レリトノ非難ニ答ヘテ曰ク
『然ラハ講話者ノ意見ニ依レハ六月十四日ニ於テハ守勢ニ出スシテ攻勢的行動ヲ執ルヘカリシカ

此ノ如キ言カ戰團ノ實況ニ基カナルモノナルハ余ノ深ク慨嘆スル所ナリ』ト又曰ク

『六月十四日戰機熟セサルニ南方支隊ヲ進撃セシメタランニハ如何ナル結果ヲ生シタリシカ其當時我二十四大隊半ニ對シ日本軍ハ三後備旅團ヲ有セシ三師團アリシニ非スヤ』ト

之ニ對スル答ヘ極メテ簡單ニシテ明白ナルモノナリ

第一、六月十四日シタクリベルグ將軍ノ南方支隊ニ對スル日本軍ハ三師團ニ非スシテ第五、第十
一ノ二師團ナリ而カモ其中南方支隊ヲ攻擊セシハ唯、第十一師團ノミナリシナリ

第二、六月十四日シタクリベルグ將軍ハ彼ニ對シテ日本軍ノ三師團カ進撃スルヲ知ラサリシノミ
ナラスニ日朝迄モ知ラサリシヲ以テ觀レハ同將軍ヲシテ斯ク迄守勢ヲ執ラシメタルモノハ上記ノ
敵ノ進軍シ來リタルヨリ起リタル考案ニハアラサルナリ若シ又同將軍ニシテ日本ノ三師團カ南方
支隊ニ對シテ進撃シ來リタルヲ六月十四日ニ實際ニ知リ在リシモノトスレハ六月十五日ニ於ケル
斯カル行動ト訓令トハ尙ホ一層當時ノ形勢ニ不適當ナルモノニシテ從テ一層甚シキ失策ト謂ハサ
ルヘカラス

六月十四日ノ行動カ全然守勢的ナリシトノ非難ハ徹頭徹尾其正鵠ヲ失ハサルモノナリ

クラウゼヴィツ氏ノ名言ノ如ク「防禦ハ抵抗戦ノ目的ヲ以テ機ヲ待ツコトナリ」トスレハ南方支
隊ノ諸隊ヘ敵ニ對シテ極力抵抗ヲ行ハサルヘカラス特ニ其右翼ニ於テ然ルヲ見ル豈ニ字義ノ示ス
カ如ク無爲ニ終ルモノナランヤ

シタクリベルグ將軍ニシテ結果如何ト詰問セハ余ハ之ニ對シ「結果ハ極ステ至當ノモノナリ」ト答ヘン

若シ我右翼軍カ六月十四日攻擊ニ轉シタル場合ニハ其當時ノ情況ヲ暴露セシメタルヤ必セリ即チ我狙擊兵第九師團ノ前方ニハ日本ノ第五師團在リシコト明瞭ト爲リシナルヘク我騎兵ニシテ右翼ノ前方ニ於テ梯形ヲ爲シ復州方面ニ進ミタランカ必スヤ日本軍第八師團ノ迂回行動ヲ發見セシナラン然ラヘ六月十四日夕刻迄ニハ南方支隊司令官ハ想像的ニアラサル實際ノ狀況ヲ明ニスルコトヲ得テ彼ノ六月十五日ノ如キ敗戦ハ起ラサリシナリ

以上述ヘタル所ヲ以テ見レハ我右翼ニシテ攻勢ニ轉スレハ日本軍第十一師團ノ攻擊ヲ著シク薄弱ナラシムルヲ得タルヘク我狙擊兵第一及第二聯隊ニ於テ徒ラン所謂「三百五十人ヨリ多カヲサル」損害ヲ受クルニ及ハサリシコトハ余カ茲ニ論スルノ要無キナリ

實際南方支隊ノ守勢行動ハ毫モ其當時ノ情況ヲ明瞭ナラシメタルモノニアラス且シタクリベルグ將軍カ六月十四日ノ戰ニ日本軍ハ全兵力ヲ暴露セリト稱スルハ何等ノ根據無キ言ナリ如何トナレハ南方支隊司令官ハ敵カ他ニ兵力ヲ有セサルヲ確信スヘキ何等ノ手段ヲモ講セサリシヲ以テナリ

此ノ如ク六月十四日ニ於ケル南方支隊ノ行動ハ當時ノ形勢ニ適合セザルモノニシテシタクリベルグ將軍ノ指摘シタル事實上ノ誤謬ナルモノハ事實ノ真相トハ何等ノ關係無ク隨テ余ノ爲セル決論

ニハ何等ノ變更ヲモ來サ、ルモノナリ

(七) 極メテ重要ナル運命ヲ決スヘキ戰闘ハ六月十五日ニ行ハレタリ

當時ノ形勢ハ決シテ南方支隊ノ半ヲ割キテ危險ナル迂回ヲ行フコトヲ許サス若シ是非共攻勢ニ出テント欲セハ其全支隊ヲ舉ケテ爲サ、ルヘカラサリシナリ然リシタケリベルグ將軍モ亦『六月十五日全支隊ヲ以テ攻勢ニ出テントハ已ニ六月十四日余ノ決心シタル所ナリキ』ト明言セリ然ラハ如何ニシテ此決心ヲ遂行スヘキヤ早朝ヨリ十時半ニ至ルモ右翼諸隊(西方隊)及總豫備隊ハ依然トシテ前陣地ニ膠着停止セルニアラスヤ敢テ問ハシ一所ニ停止シテ動カサルハ是レ何式ノ攻擊法ナリヤ

然ルニシタケリベルグ將軍ハ語ヲ續ケテ曰ク『總攻擊ニ關シテハ命令ヲ發シタリ』ト之ヲ以テ同將軍ハ一切ヲ證スルニ足レリトスルカ戰闘ノ前日未タ狀況ノ全然不明ナルニ際シテ命令ヲ發シ以テ支隊長ノ責務ヲ悉ク盡シタルモノトスルカジリンスキ一將軍ノ説明シタル如キ極メテ曖昧ナル二通ノ書類ヲ發シタルハ事實ナリ然レトモ戰闘ノ指揮統一ヘ全然閑却セラレタリ

若シ軍ニ攻擊命令ヲ其前日ニ發シタルノミニテ戰闘ノ指揮統一ヲ全フシ得タルモノトセハ焉ソ名將ノ事蹟ヲ研究スルニ及ハシヤ若シ此ノ如クンハ指揮官タル者ハ皆常ニ自己ノ命令ヲ發シタルノ一事ヲ楯トシテ其職責ヲ全フセリト謂フヲ得ルニ至ラン
然レドモ攻擊命令ヲ發スルトヘ戰闘ヲ開始スルノ意ニシテ戰闘ノ辛苦困難ヘ尙ホ前途ニ在リ未タ

之ニ違シタルモノニナラス

如何ナル命令モ皆一定ノ瞬間ヲ利用シテ之ヲ發スルモノニシテ假リニ一時間前ニ時機ニ適シタル命令モ時トシテヘ常ニ變化窮リ無キ状況ニ應シテ短時間中ニ根本的修正ヲ爲ササルヘカラサルコトアルハ免カルヘカラス况ニヤ前日ニ作成セラレ曖昧ナル書類ヲ以テ補ヘレタル戰鬪命令カ一片ノ反古ト爲ルノ虞アルハ當然ノコトナリトス（グルニ將軍ノ言ニ依レハ敵軍ノ右翼ヲ迂回セントハ六月十四日午後四時既ニ決定セラレタル所ナリ）前記ノ書類中殊ニゲルシングロス及グラスコ將軍ニ向テ發シタルモノハ極メテ特異ノモノナリキ一般計畫遂行ノ目的ヲ以テ敵ノ一翼ア迂回スルカ爲メ派遣セラルヘキ部隊ハ總支隊司令官ヨリ直接斷然タル命令ヲ受領スルヲ至當トス蓋シ此ノ如クシニシテ始メテ總攻擊ノ一致聯繫ヲ保持シ得ルヲ以テナリ然ルニ此ノ如キ不定ナル區署ヲ行ヒタル結果第三十五師團第一旅團ノ迂回運動カ何等ノ効果ヲ收メナリシハ當然ナリシタケリベルグ將軍カ第三十五師團第一旅團ノ奇怪ナル行動ハ敗因ノ一ナリトテ自己ノ責任ヲ免ルルハ却テ奇怪ナリト謂フヘシ

第三十五師團ノ第二旅團カ他ノ部隊ト同シク南方支隊ニ屬シ直接同支隊長ノ指揮ヲ受ケ在リタリシハ明ナルコトニシテ支隊司令官ハ未明ヨリ絶ヘス迂回縱隊ノ行動ノ進捗ヲ監視セサルヘカラサリシナリ若シ支隊カ勝利ヲ博スルトキハ賞賛ノ聲ハ當然先ツ支隊司令官ニ向テ發セラレ誰カ復タ勝利ニ與テ力アル部隊ノ何タルヲ問フ者アラン然レトモ若シ支隊ニシテ破レンカ同シ理論ニ依テ

支隊長ハ甚シキ非難ヲ受ケサルヲ得ス而シテ失敗ノ大ナル責任ハ彼ノ双肩ニ懸ル是レ當然ノコトニシテ固ヨリ斯クアラサルヘカラス然ルニ隊長ニシテ其失敗ノ罪ヲ部下ニ負ハシメント試ミタル者アリシハ實際ナリ然レトモ幸ニシテ常ニ其目的ヲ達セス失敗ニ終リタリ

或ハ曰ク得利寺戰ニ於テハグラスコ將軍ノ旅團カ一切ノ事物ヲ失敗ニ歸セシメタリト果シテ然ラハ支隊司令官タル者ハ得利寺ニ於テ勝利ヲ博ゼンカ爲ニ何事ヲ爲シタリヤ

戰闘ノ指揮ヲ執リ全支隊ノ攻撃ヲ一致セシメ且ツ戰闘ノ前日ニ至リテ纔ニ作成セル實際ニ符合セチルモノニアラスシテ實際ノ狀況ニ適セル區署ヲ爲サルヘカラサリシハ蓋シ何人ナリシカ

戰闘ノ大小ヲ問ハス最モ貴フヘキハ忠實ニ百般ノ事態ヲ綜合シテ真相ヲ洞見スルニ在リ

正鶴ヲ失セル命令ヲ下スハ恰モ病者ニ全ク他ノ病氣ニ用フル藥ヲ與フルカ如ク一ノ罪惡ナリシタケリベルグ將軍ハ此明白ナル違算ヲ認メ在リタルカ如シ果シテ然ラヘ彼ハ如何ニ之ヲ認メ在リシカ彼ノ言フ所ヲ以テスレハ第一ニ軍司令部、第二ニ彼ノ要求ヲ遂行セザリシ騎兵隊カ過テルコト是レナリ彼ノ言フ如クンハ支隊司令官ヲ除キテ第一軍司令部、第二グラスコ將軍旅、團第三シモハフ將軍騎兵支隊、第四砲兵隊ハ皆過失者タリ

シタケリベルグ將軍ノ證言ニ依レバ其際旅團モ騎兵支隊モ亦砲兵隊モ其命セラレタルコトヲ毫モ行ハサリシナリト

余ハ更ニ言ハシ唯命令ヲ發シタルヲ以テ足レリトセス宜シク其命令ヲ遂行セシムヘシ且ツ其遂行

ヲ監視スヘシト

六月七日附軍司令部ヨリシタケリベルグ將軍ニ發セシ命令書ニ奥軍ノ兵力ヲ不正確ニ示シタルコトアリシハ余カ講話中ニ注意シ置ギタルカ如シ然レトモ之ト同時ニ之ヲ以テシタケリベルグ將軍カ其判断ヲ誤レル大原因ノ一ト爲スコトハ余ノ到底同意スル能ハサル所ナリ

六月七日シタケリベルグ將軍ノ前面ニハ一或ハ二師團ノ敵軍在リト報告セラレタリト雖モ此報告ニ甘シテ敵兵力ノ薄弱ナルヲ確信シ以テ悠々トシテ六月十五日ニ及ヒタルハ蓋シ誤レルモノト謂ツヘシ軍司令部ハ奥將軍ノ兵力カ最後迄二師團ヲ超ヘサルヘシトノ保證ヲ與ヘタルニ非スサレハ南方支隊司令官ハ自ラ敵ノ兵力ヲ適時ニ探知スヘキ方法ヲ採ラサルヘカラサリシナリシタケリベルグ將軍ハ自己ノ騎兵支隊ニ罪ヲ歸スルト同時ニ其過失ヲ寛恕スヘキ事情ノ存スルヲ説明セサルヘカラストドセリ其事情トハ其地方住民カ吾人ニ敵意ヲ含ミタルコト、言語ノ通セサルコト及間諜無カリシコトナリトス

是ニ依テ觀ルニ我軍ニハ騎兵多クシテ間諜少ク敵軍ニハ騎兵少クシテ間諜多カリシモノノ如ク此ノ如クニシテ我軍ハ間諜ノ不足ト騎兵及第三十五師團第二旅團ノ誤レル行動トニ因リ得利寺ニ敗動セリト噫如何ナレハ斯リセ準備偵察ト接敵及衝突ノ際ニ於ケル偵察トヲ眞面目ニ混同スルニ至リタリシソ

準備偵察ノ如キ場合ニハ間諜ハ最モ重要ナル報告ヲ與フルコトヲ得ルハ勿論ナリト雖モ後者ノ如

0476

キ場合即チ情況刻々^{シテ}變化シ單ニ豫備隊カ或ル方面ニ數露里ヲ移動シタルノミニテ兵力ノ集中カ全然變化セラルル場合ニ於テ如何ニシテ間諜カ此變動ヲ探知シ得ヘケンヤ

否、重要ナル方面ニ於テ歩兵隊ニ掩護サレタル騎兵ヲ機敏ニ應用シテ始メテ其真相ヲ知悉シ得ルノミサレハ若シ騎兵隊ニシテ得利寺附近重要地點ノ偵察ヲ行ヒシモノナラハ此ノ如キ盲目戰ヲ行フニ及ハサリシナルヘシ

彼ノナボレオンカマンツア^ヲ包圍ノ際俄軍カ諸方面ヨリ進撃セリトノ報告ヲ得ルヤ自己ト偉大ナル思慮ヲ以テ形勢ヲ正確ニ察知シ最モ重要ナル方面リボリイ高地ニ突進セリ此事ハ彼ノナボレオノハ指揮者又ハ間諜ヨリ聞知シタルニ非スシテ彼我軍隊ノ行動ニ基キテ知得シタリシナリ然レトモ是レ即チナボレオンノ英傑タル所以ナリ

以上述ヘタル所ヲ綜合スルニ左ノ如クナラサルヘカラス

事實ノ真相ニ關シシタケリベルグ將軍ノ爲シタル事實上ノ訂正ニハ同意セサルヘカラス然レトモ之ト共ニ行動及區署ノ真相ハ之カ爲ニ少シモ變化シタル所無シ

以上余カ指摘セシ屢然タル總テノ違算ハ戰鬪參加者カ如何ナル訂正ヲ行ヒタリトモ又騎兵隊指揮官カサムソノフ將軍ニアラスシテシモノフ將軍ナリシトモ將又命令カ第何號ヲ以テ發セラレタリトスルモ依然トシテ永久違算タルヲ免レサルナリ

如何ナル方面ヨリ論スルモ得利寺ノ敗戦ハ今回ノ不幸ナル戰爭ノ隙脱タル表面ニ於ケル一ノ黒班點ニ

シテ徒ラニ數千ノ人命ト數十門ノ砲トヲ亡失セシコトハ此無益ニシテ無謀ナル戰闘ノ參加者及過失者等カ如何ニ附會ノ説明ヲ以テスルモ辯明スル能ハサル所ナリ